

おためし読み

*はじめに

*もくじ

*第1章

NYの女性に学ぶ “魅せ方”

好印象プロデューサー
原田真里



ニューヨーク

NYの女性に学ぶ

個性をいかす

「好印象」

の磨き方

原田眞里

Mari Harada

ビジネス社

自分らしく輝いて生きる

私はニューヨークと東京で、長年にわたってファッションデザイナー、コンサルタント、セレクトショップのバイヤーなど、ファッション業界の最前線をひた走ってきました。そして現在は、女性の好印象な“魅せ方”をサポートすることを仕事にしています。

その原点はニューヨークにあります。

多感な20代を過ごしたニューヨークで、私は実に多くのことを学び、日本との違いに気づき、日本女性であることの素晴らしさを再認識しました。

同時に、日本女性のために貢献できることは何か？ という、自分の使命に目覚めるきっかけをつかみました。

「自分らしく在る」ことの重要性。

それを認めることが自分を活かし、自分らしく輝いて生きることにつながる！
そう教えてくれたのがニューヨークの女性たちなのです。

ニューヨークの女性たちはみな自分を肯定し、自信にあふれ、自分の魅力を最大限に魅せることに長けています。

一方、日本女性は繊細で美しい感性を持ち、優れた部分も多いのに、他人にどう見られるかばかりを気にして、その魅力を活かしきれていない……。

そこに気づいてもらいたい！ 日本女性にもっと“自分らしく輝いて生きる”存在になってもらいたい！

そんな想いで編み出したのが、本書で紹介していく「好印象スター診断」なのです。

あなたが本来生まれ持っている「自分らしさ」が、「好印象スター診断」でわかります。

私はそれを「スター性」と呼んでいます。

本書では、あなたの「スター性」がわかるとともに、さらにその「スター性」を活かして輝くヒントをお伝えします。

「好印象スター診断」を受けられた皆さんは、口々にこんなことをおっしゃいます。

「なぜ似合うのか、似合わないのかがわかって、違和感が解消しました！」

「人から言われる印象にギャップを感じていた理由が理解できました！」

「本当の自分がわかって、長年の思い込みからやつと解放されました。今まで自分に制限をかけて、我慢して生きてきたんですね！」

解決できて、よかったです♪

人生というステージに立つあなたの前に降りているカーテンを開けるのは、あなたご自身です。

自分らしく輝いて生きる！ その一步を、今ここから踏み出してみませんか？

好印象プロデューサー 原田眞里

はじめに 自分らしく輝いて生きる……2

第1章



ニューヨークの女性に学ぶ“魅せ方”

ファッションの本場 憧れのニューヨークでの生活……12

自分をアピールして他人に認めさせるニューヨークカーたち……15

控えめなシンディが魅せたハロウインのミニドレス……19

ニューヨークの女性は「見た目コンプレックス」で卑屈になつたりしない……24

女子力満載で可愛いキャロルがクールなビジネスウーマンに変身……27

ジーンズにTシャツから、ゆとりと品格のあるスーツ姿に……32

おじさまの人気者 マッチョなクールビューティー……37

目指すのは「お金持ち」ではなく「本物のリッチ」……43



自分らしく輝くために重要な「軸」

日本の女性をもっと輝かせたい！その思いから「好印象スター診断」を考案……48

自分の「軸」がわかれば魅せたい印象はコントロールできる……50

「軸」が定まっていないとあなたの印象はぼやけてしまう……53

パフォーマンスの良し悪しを左右するのは「軸」……56

「診断結果」にとらわれてファッション迷子になっていませんか？……61

自分の「軸」を知ればもっと自由に生きられる！……64

「見た目」という外見は、実は見えない「内面」の表われ……67

自分の本質に向き合って「マインド軸」を整えることが大事……71

「マインド軸」を整える①

言霊を大切にして肯定的な言葉を使う……74

「マインド軸」を整える②

自分を褒めること 相手を褒めること……78

「マインド軸」を整える③

「在りたい自分」をビジョン化すると、そこに到達する道筋が見えてくる……82

第3章 好印象スター診断

「好印象スター診断」で「軸」を見つける

- 8000人超の実体験データを元にまとめた「好印象スター診断」……90
- 「好印象スター診断」であなたのキャラクターがわかる！……94
- 好印象スター診断＊セルフチェック……96
- A・C用エネルギーベクトルチェック……100
- B用エネルギーベクトルチェック……102
- 持って生まれたあなたの「スター性」は？……104
- キラキラ感がありキュートで可愛いお姫様タイプ「アイドルタレント」……106
- 上品で優しく、お嫁さんにしたいタイプNo.1の「清純派女優」……108
- ちよつぴりセクシー 大人可愛くて華やかな「小悪魔女優」……110
- 面倒見が良くてカッコいいクールビューティー「アクション派女優」……112
- 地に足のついた頼れる雰囲気落ち着いた大人の女性「ニュースキャスター」……114
- 存在感を感じさせる、グラマラスでゴージャスな雰囲気の「宝塚スター」……116
- 6つの「スター性」に似合うファッション……118

基本的に似合うファッション①

「アイドルタレント」は若々しさ、新鮮さ、ハツラツさが持ち味…… 120

基本的に似合うファッション②

「清純派女優」は優雅さ、やわらかさ、奥ゆかしさがポイント…… 122

基本的に似合うファッション③

「小悪魔女優」は大人可愛さ、つやつぽさ、しなやかさを表現…… 124

基本的に似合うファッション④

「アクション派女優」はクールビューティー、姐御っぽさ、サッパリ感がポイント…… 126

基本的に似合うファッション⑤

「ニュースキャスター」は責任感、落ち着き、思慮深さが持ち味…… 128

基本的に似合うファッション⑥

「宝塚スター」は華やかさ、ダイナミックさ、大胆さを表現…… 130

6つの「スター性」の位置関係、ポジショニング…… 132

第4章

「好印象クロスメソッド」で“魅せ方”を広げる

「軸」を基点に“魅せ方”はいかようにも広げられる……136

「好印象クロスメソッド」で“魅せ方”を広げる〈ファッション編〉……140

「好印象クロスメソッド」で“魅せ方”を広げる〈アクション編〉……148

「好印象クロスメソッド」で“魅せ方”を広げる〈マインド編〉……152

第5章

「好印象プロデュースプログラム」でこんなに変わった！

「好印象プロデュースプログラム」で人生が劇的に変化する方が続出！……158

「好印象プロデュース」体験談①

婚活で勝つ！ 自分らしさ輝くプロフィール写真でご成婚（A・T様 一般事務 40代）……162

「好印象プロデュース」体験談②

復職、転職、就職はこわくない！ 望まれて転職に大成功（M・F様 シングルマザー 40代）……168

「好印象プロデュース」体験談③

仕事で大抜擢！ 「在りたい自分」のビジョン化で願望成就（Y・K様 メーカー勤務 30代）……175

「好印象プロデュース」体験談④

美容コンテスト全国大会で見事グランプリを獲得（K・C様 美容家 50代）…… 181

「好印象プロデュース」体験談⑤

オーディションに合格して念願の舞台出演が決定！（T・M様 女優志望 50代）…… 185

「好印象プロデュース」体験談⑥

オンラインでもリアル以上！地元でついに起業を決意（Y・I様 コンサルタント 50代）…… 191

おわりに 好印象の、その先へ…… 197

「好印象スター診断®」「好印象プロデュース®」は登録商標です。許可のない使用はお控えください。



第1章

ニューヨークの 女性に学ぶ“魅せ方”





ファッションの本場 憧れのニューヨークでの生活

高校を卒業した翌日の3月21日。商社マンだった父の転勤で、私たち家族はニューヨークへ飛び立ちました。「人種のるつぼ」といわれる大都会での、約10年間におよぶ生活の幕開けです。

当初は何もかもが新鮮で、驚きに満ちた「発見の日々」でした。すべてのもののサイズ、量といたら日本の2倍以上あります！人の大きさに比べて、食事の量はもちろんのこと、スーパーで見かける家庭用アイスクリームのパッケージの大きいこと！当然、家具も大きければ、家そのものが広い。そんなところに日本との違いをまず感じました。

生活習慣やものの考え方にもさまざまな違いがあり、私にとっては良い意味での力

ルチャーショックの連続でした。

まず最初に驚いたのは、「専業主婦」という立場は存在しない！ ということです。家事や育児と仕事の両立は当たり前であり、仕事をせずに主婦業だけに甘んじている女性は能なし、あるいは怠惰というのが、男女問わず共通した評価なのです。

もちろん、女性が家庭と仕事を両立しやすい環境が整っていることもありますが、日本女性の在り方との違いに「へえ〜！」と、母と一緒に感心しました。今でこそ日本でも女性が働くのは普通ですが、当時は「なるほどね〜」と感心したものです。

家事、育児、仕事の3役をこなす女性たちはさぞや大忙しなのでは？ と思いきや、まったくそんなことはなく、皆さん自分を魅せることに手を抜かず、美しくて、十分に生活を楽しんでいる様子でした。

普段でもヘアメイクをきちんと整え、色鮮やかなウェアを身につけていて、髪を振り乱している人など一度も出会ったことはありません。

「ニューヨークの女性って、なんて豊かでパワフルなんだろう！」
これが私の最初の印象でした。

誰もが自己の存在をアピールする街

「ファッションデザイナーになる！」ことを夢見ていた私にとって、ニューヨークというファッションビジネスの本場で生活できることは、まさに願ったり叶ったり。ニューヨーク州立ファッション工科大学 (Fashion Institute of Technology) のファッションデザイン科を主席で卒業した私は、紆余曲折を経て、現地のアパレルメーカーに就職しました。

とてもシビアなファッションビジネスの世界でキャリアを積むうちに、私の中に当然のように沁み込んだのは、「自分の存在をアピールする」という生き方でした。

より優位に立つため、目指すものを手にするため、自分の立場を守るため、夢を叶えるため、勝利するために、女性も男性も自分の能力や持てるすべての可能性をアピールし、主張するのは当然のこと。そうしないと生き残れないのがニューヨーク、肉強食の世界なのです。つねにきびしい現実がありました。



自分をアピールして 他人に認めさせるニューヨークカーたち

さまざまな体験の中でも、忘れられない出来事があります。今日の私の原点になったといえる出来事です。

それはある大手子供服メーカーに在籍していたときのことでした。

社長にデザイン力を評価された私は、新しい「キャラクターライセンス部門」の主任デザイナーに抜擢されました。主任デザイナーには、デザインに関するすべての権限が与えられます。好きなように商品を企画し、サンプルをつくり、会議にかけて、採用されれば商品化されます。

幸い、手がけた多くのデザインが社内でも評価されて、次々と商品化されました。そして部門強化のために、中途採用の1人の営業女性とチームを組むことになったのです。

ジェニファアは大柄で個性が強く、大胆な雰囲気です。そんな彼女の隣で小さくなりながら、展示会では遠慮がちに商品説明をする私でした。ラッキーなことに商品は多くのバイヤーに気に入られ、全米の百貨店をはじめ専門店の店頭に並ぶこととなり、会社の売上げに大きく貢献したようです。

同僚の猛烈なアピールに驚く

ニューヨークではクリスマスに年1回の大きなボーナスが出ます。12月のある日、デザインルームのミーティングで、ジェニファアの発言に驚きました。ボーナスの評価を狙ってなのでしょうか、彼女は堂々と言う言い放ったのです。

「キャラクターライセンス部門の売上げが良いのは、すべて私の力があつてのこと。私にはどんなつまらない商品でも売り込む力があるのよ。私がいなければ、こんな売上げはつくれなかったはずよ。まちがいないわ!」と。

ここで私が生粋のニューヨーカーだったなら、「ハッ!?!」と猛反撃に出ていたかもしれませぬ。が、あまりの堂々たるパワフルな発言に飲まれた私は、「あなた1人の

力だけではないはすよ。デザイナーとして魅力的な商品を企画した私のことを忘れてほしくはないわ！」と発言するのが精一杯でした。

つねに優位に立つために、絶対に負けを認めないのがニューヨークです。よほどのことがない限り謝ることをしません。ミーティングが終わったあと、そんなジェニファーが、謝るのではなく、こう話しかけてきました。

「さつきは少し言い過ぎたかもね。もちろん、私はあなたを評価しているわ。でも営業として私が貢献したことを、皆にちゃんと理解してほしかったの。この仕事にプライドを持って、いつもベストを尽くしているのだから、評価されて当然だわ。私はこの仕事が好き！ 私にとっては自分を一番活かせるのが営業という仕事なのよ。デザイナーとしてのあなたも同じでしょ？」と。

確かにその通り。そして私たちは、これからお互いにベストを尽くすことを誓い合い、「じゃ、また明日ね」と一日を終えたのでした。

アピールする、主張するのは当然のこととは思っても、日本人として生まれ育った

遠慮深い私にとっては、たやすいことではありませんでした。でもこの出来事は、自分自身の在り方、存在意義を示すことの重要性を改めて考える大きなきっかけとなりました。

そしてまた、のちに考案することになる「好印象スター診断」の貴重なヒントにもなったのです。



控えめなシンデ이가魅せた ハロウィンのミニドレス

シンデ이는、私がアシスタントデザイナーを務めるアトリエのパタンナーです。パタンナーとは、服の設計図である型紙をつくる人のことです。

シンデ이는小柄でスリム、ごく普通の顔立ちにいつもノーメイク。美しいプラチナブロンドのサラサラヘアなのに、無造作に切りっぱなしで、特別に目立つ装いはせず、声も小さめで自己主張もあまりしないタイプ。どちらかといえば控えめで影が薄い存在です。いつもお手製のサンドイッチを持参して、一人静かにデスクで本を読みながらランチタイムを過ごしています。

人の出入りが激しく、いつもごった返して、糸くずや生地の切れ端が舞っているようなアトリエの一角で、彼女のパターン台の周りだけは静かな空気が流れているような、ある種平和で安心できる優しさをまとった女性です。

率先して前へ出るニューヨークの女性というより、奥ゆかしい日本人っぽさを感じる同年代のシンディーに、私はとても親近感を抱いていました。

大人も子供も楽しみなハロウィン

10月31日はハロウィンです。お菓子をもらえとはしゃぐ子供たちはもちろんのこと、仮装好きな大人も楽しみにしている毎年恒例のお祭りです。マンハッタンのダウンタウンを練り歩くハロウィンパレードは、趣向を凝らしたオリジナルのコスチュームに身を包む人々であふれ返ります。パレード参加者は1か月前になると、「今年はどんなコスチュームにしようか？」とソワソワし始めます。

この年、ダウンタウンのロフトに引っ越したばかりの友人夫妻が、「オープンハウスを兼ねてハロウィンパーティーをやるから、お友達と一緒にぜひどうぞ！」と招待してくれました。当然、「ドレスコードは『仮装』で」とあります。

普段であれば自分一人で参加する私ですが、シンディーを誘ってみようかと思い立ちました。いつも物静かな彼女にとって、仮装パーティーに参加するのは良い刺激にな

るのではないかしらと、お節介ながら思ったのです。誘ってみると、シンディーはうれしそうに「ぜひ行くわ♪」と言ってくれました。

♡♡ シンディーの意外な一面

ハロウィン当日の夜。私はパイレーツ（女海賊）の衣装に身を包んでシンディーを待っていました。時間になっても姿を現さない彼女に「どうしたのかな？」と思っていると、向こうから胸元もあらわな真っ赤なミニドレスに黒いショール、盛りに盛ったクルクルのロングヘアウィッグに、ピンヒールを履いた人が歩いて来ます。

それはなんと、シンディーでした。

「ハッイ！ 遅れてごめんなさい」と言う彼女に、私は言葉が出ませんでした。普段のシンディーからは想像もできない姿に、「シンディー!? 本当にあなたなの？」と確認するのがやっとです。するとシンディーは、「そう、私は娼婦よ！」と返すではありませんか。

今まで見たこともない大胆なメイクで、しなをつくってウインクする彼女に、私は

思わず「最っ高〜〜〜！」と叫んでしまいました。

パーティー会場はたくさんの人たちで盛り上がっていて、私たちは一生分と思うほど笑い、踊り、ワインを飲み、叫び声をあげて、最高に楽しい一時を過ごしました。

何よりもうれしかったのは、私の知らないシンディーの奥深い一面を見たことです。普段は控えめで物静かな彼女が、ところ変わればこんなにも大胆に自分を表現するのを知って、とても新鮮な気持ちを抱きました。私はますます彼女が好きになりました。

数日後、彼女は私に、「ハロウィンパーティーで知り合ったジェフからデートのお誘いがあったの。前の彼氏と別れて1年間ずっと独りだったけど、何かが始まりそうよ。マリ、パーティーに誘ってくれてありがとう！」と話してくれました。

第1章 ！ ニューヨークの女性に学ぶ“魅せ方”





ニューヨークの女性は

「見た目コンプレックス」で卑屈になつたりしない

「自分らしさという武器」にとことん磨きをかけるのがニューヨークの女性たちです。単に美しくなることが目的ではなく、より自分の自信を深めるために、より相手よりも優位に立つために、自分らしいアピールの仕方、*“魅せ方”*を磨くのです。

人と違って当たり前。コンプレックスはあつて当たり前です。

でも、見た目コンプレックスで卑屈になったり、自信をなくして陰に隠れている人など私は一人も見ることがありません。それらすべてを「自分らしさ」として肯定的に捉えているからです。「私に見た目コンプレックスがあるとしても、それがあなたにどう影響するの？」というスタンスです。

たとえばどんな体型でも、恥ずかしいとの思いで隠すことはありません。肌の色、髪質、話し方や発音（なまり）などなど、すべてにおいて「ありのままの自分」です。

どんなファッションもあります。トレンドはあっても、ファッションに正解も不正解もありません。自分は自分、他人は他人。皆違って当たり前。

逆に個性的であることは評価の対象となり得ます。

自由に正直に、人としてありのままの自分でいられるのがニューヨークです。

地位や肩書きではなく人間性が問われる街

社会的な地位や富、見た目の良し悪しがまったく評価に影響しないとは言いきれませんが、それ以上にどれだけ実力があるのか、どれだけ人間的魅力があるのか、その人に対する評価は「1人の人間としてどうか？」という部分が最も重視されます。

たとえば日本ではそれなりに社会的地位のある偉い人であっても、ニューヨークで大きな態度は通用しません。同じ人間同士という目で見られるからです。

なので、日本ではとてもお近づきになれないような偉い方とは、ニューヨークで知り合うと、わりと簡単にお友達になれたりします。地位や肩書きを超えた人間同士で接することができるからです。私自身、実際にそのようなしてお近づきになった有名

人は何名かいらっしゃいます。

コンプレックスの捉え方に関しては、デリカシーや感性といった国民性の違いがかなりあると思います。日本人は優美さを求め、より洗練された完成度の高いものを目指すため、その物差しに合わないとは不合格というレッテルを貼りがちです。

でも、周りの物事に対してだけでなく、自分に対してそのレッテルを貼るのは、日本女性の特徴かもしれません。

もともと、これをポジティブに捉えれば、私たちの意識はそれだけ高い、ともいえると思います。

日本女性としての繊細さとニューヨーク女性のタフさ、その両方が兼ね備わったら怖いものなし！ の女性になれるのではないかといつも考えています。



女子力満載で可愛いキャロルが クールなビジネスウーマンに変身

私が通っていた専門学校のファッションデザイン科の同期に、キャロルがいました。色白で小柄、ポツチャリ体型の彼女は、えくぼがチャーミングな可愛い女性です。

キャロルはレースやりボンが大好き。こういう女子力たつぷりな女性は、ワイルドなニューヨークではわりと珍しいタイプといえます。私は繊細な感性を持つ可愛いキャロルが好きで、仲良くしていました。

卒業後、私は当然のようにデザイナーの道を歩む選択をして、就職先探しに明け暮れていましたが、キャロルは進路について迷っているようでした。

卒業して社会に出てしまうと、同期の仲間たちとは連絡を取り合う機会も減り、キャロルとも疎遠になっていきました。彼女が結局どのような進路を選んだのかはわかりませんでした。

♡♡ キャロルとの再会

数年の歳月が流れたある日、私は友人に誘われて、ビジネス交流会なるものに初めて参加しました。私は起業家ではないのでメンバーになるつもりはありませんでしたが、いったいどんな人たちが参加する会なのかに興味があり、ゲスト参加したのです。

ビジネス交流会には、さまざまな業種に携わる男女が約50名ほど参加していました。弁護士、医師、公認会計士といったお堅い仕事の人から、写真家、グラフィックデザイナー、各種セラピスト、そして物販に携わる人たちまで多種多様です。

ユニークなのは、「1業種につきメンバーは1人のみ」というルールがあり、メンバー同士でお客様を紹介し合ったり、自分たちでメンバーのサービスを利用し合ったりするそうです。なるほどよくできたシステムで、このような交流会のメンバーになれば人脈も増えるでしょうし、個人起業家にとっては参加するメリットがあるだろうと思いました。

メンバーが順番に自分の仕事をアピールする、自己紹介タイムになりました。多く

のメンバーが話を終えたほとんど最後に、ひときわ目を惹く美しい小柄な女性がマイクの前に立ちました。印象的なメガネをかけ、スツキリとしたスーツ姿にヒールを履いています。

私は思わず、「あゝっ！」と小さな叫び声をあげました。それは同期のキャロルだったからです。

「キャロル・ザルームです。男性専門のイメージコンサルタントをしています」と、実に堂々と落ち着いた話っぷりです。昔の面影はあるものの、あの可愛らしい女子力満載な雰囲気は、いったいどこへ行ってしまったのだろうか？ 大人っぽく落ち着いていて別人だわ！ 私は驚きが隠せませんでした。

自己紹介タイムが終わるやいなや、私は彼女のもとへ飛んで行き、お互いに久々の再会を喜び合ったのです。

🌀 場面に応じて自分の“魅せ方”をコントロール

彼女はこれまでのいきさつを話してくれました。

意外なことに、同性の私が魅力に感じていたキャロルのあどけない可愛らしさは、実は彼女の悩みの種であり、長い間、コンプレックスだったのです。特に社会に出てからは子供っぽく見られがちで、何をしても評価も低く、まともにとり合ってもらえずに、自信をなくして落ち込んでいたようです。

そんな自分を何とか変えたいと思って専門家を訪ねたところ、装い方やヘアメイク、話し方など多方面からのアドバイスを受けて、ようやく仕事で自信を持つことが出来るようになったのだとか。その専門家というのがイメージコンサルタントで、自分もその道を目指そうと新たに勉強を始めて数年がたち、今に至る、とのことでした。

イメージコンサルタントは、お客様の目的に応じてふさわしいファッション、カラーコーディネート、話し方、動作、マナーなどをアドバイスするのが仕事です。ファッションをベースとした印象管理術ともいえるこの業種について私が耳にしたのは、このときが初めてでした。

キャロルはこう続けました。

「私は自分自身への挑戦という意味もあつて、クライアントはあえて男性に絞ったの。昔のように甘く見られない自分を確立するためよ。ビジネスシーンではいつもきちん

としたスーツ姿。お陰様でこの交流会では信頼を得られて、お客様もご紹介いただけているの。でも、ビジネス以外での私は昔のまま。相変わらずレースやリボンの世界が大好きよ！ この眼鏡も大人っぽく見せるため、度は入ってないの！ アハハ」

そう言って大きな笑顔を見せてくれました。

なるほどねー！ キャロルはシーンに応じて自分の“魅せ方”をコントロールしているというわけです。しかも、女子力満載な部分は、自分自身でちゃんと認めながら。

女性には本当に奥が深いです。粹に収まり切らない可能性に満ちています。

そんな女性に生まれたことを、心の底から感謝する思いが湧きあがりました。

よくよく考えてみると、私が今の仕事に至ったそもそものきっかけは、このキャロルの一件だったかもしれません。それだけ印象的な出来事でした。



ジーンズにTシャツから、 ゆとりと品格のあるスーツ姿に

アメリカの3大テレビ局といえば、ABC、CBS、そしてNBCです。その一つであるNBCは、アメリカ最古のネットワーク局で、日本では「刑事コロンボ」などを制作したことで知られています。カメラウーマンのトゥリクシーは、そのNBCテレビ局に高く評価され、長年契約を更新し続けています。彼女の写真のセンスにはうなるものがあります。

チエルシー地区にあるトゥリクシーの住まい兼スタジオは、彼女自身の作品やユニークなものであふれていて、まるでアートの展示会場のようなです。そこにはいつも個性的な友達やお客さんが集まっていて、そんな幅広い人脈も彼女の魅力です。

有名テレビ局のお堅い仕事が中心とはいえ、彼女は写真家でありアーティストです。普段はクリクリのアフロヘアもそのままに、見た目も個性的で自由奔放。

けれど、仕事ときはガラツと変わり、いつもジーンズにTシャツ姿。「報道写真の現場では、とにかく動きやすさと機性能が重要な。ファッションは不要！」と言います。「確かに！なるほど、それが仕事の定番ユニフォームということね」と理解しました。

♡ アーティスティックなトゥリクシー

トゥリクシーと知り合って数年たった頃、彼女は私にこんなことを言いました。

「NBCの報道写真の仕事は面白いけど、歳を重ねて最近ちよつと疲れを感じるの。

今後のことを考えて、少し路線を変更してみるのも悪くないと思うのよね」と。「??」

と首をかしげる私に、彼女は具体的に何を考えているのか教えてくれました。

彼女の新たななる挑戦は、「個人起業家専門のポートレート・フォトグラファー」という路線です。彼女のもとに集まるさまざまな人たちのポートレートを撮るうちに依頼が増え、「これでイける！」と確信したようです。

しかも、「やり手起業家として成功したいと願う人なら、それなりの価格設定でも

納得するはずよ。私なら、彼らが望む『パーフェクトな写真』を提供できるから！」と自信満々です。

けれど私は正直いつて、いつもジーンズにTシャツというカジュアルな装いで、それなりのプロフィール写真を望む起業家にアピールできるのだろうか、信頼を得るのは難しそうだな……と思いました。

「魅せて伝える」努力が大事

しばらくしてトゥリクシーからスタジオをリニューアルしたと聞いた私は、早速、彼女の仕事を訪ね、驚きで目が丸くなりました。

以前のアート会場のような雰囲気は影もなく消え、スツキリとモダンなイメージで統一されています。新しいイメージに合わないものはすべて排除されていました。「まあ、ずいぶんイメージを変えたものね！」と、驚いて見て回る私に、トゥリクシーは彼女自身のポートレート写真を見せてくれました。

黒つばい重厚感漂う背景に、スツキリとしたスーツ姿の彼女が、コンパクトにまと

めたヘアスタイルで爽やかに微笑んでいます。ゆとりと品格を感じさせるポートレートです。

ええ？ 今までのジーンズにTシャツという作業イメージからガラリと雰囲気を変えて、こんな表現ができるんだ！

私はとても衝撃を受けました。何しろスーツ姿にまとめ髪の彼女を見たのは、それが初めてでしたから。

驚く私に、彼女はこう言いました。

「やり手起業家のポートレートを撮るには、まずは私自身がそのお手本となるイメージを提示しないとね。これは、私の『新しいお客さん』にアピールするためのイメージ戦略なのよ。わかる？」

圧倒されながら、「さすが！」と深くうなづく私でした。

この一件を通して私は大切なことを学びました。自分が望むものを手に入れるには、戦略を持って魅せることが重要だということです。

仮に、以前のアート会場をひっくり返したようなスタジオで、アフロヘアに個性的

な装いのフォトグラファーが、「やり手起業家の皆さん、〴〵できるイメージ」のポートレートを撮りますよ！」と言ったところで、はたしてどうでしょうか？ もちろん、トウリクシーのキャリアや力量を知る人は手をあげるでしょう。けれど、多くの人には彼女のことを知りません。

より多くの人にアピールするには、「魅せて伝える」ことが必要不可欠です。

新しい出発にお祝いを述べた帰り際、「新しいホームページも製作中よ。完成したら送るわね！」と、瞳を輝かせながら見送ってくれたトウリクシーでした。